

私たちの大切な地域医療を守るために

△郡上市の今後の地域医療を

みんなで一緒に考えよう



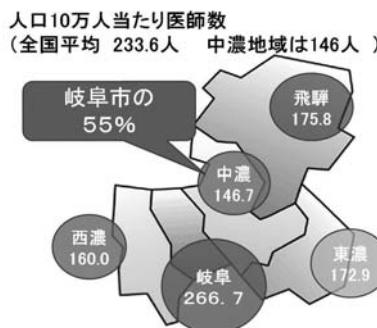
▲郡上市民病院
片桐病院長

なぜ医師不足か

●子供が熱を出し機嫌が悪そうです●娘が出産に帰郷しました●交通事故で救急隊に救出されました●急に体調が悪くなり、かかりつけの先生から検査・手術が必要と言われました

初期臨床研修医制度

病院に電話すると『当院では本日は対応できません、岐阜の方の○○病院に行つてください。』今まで郡上市内で治療できていた病気が、数年後に市内での治療が完結できなくなるとしたら、あなたはどうしますか？これは遠い将来の話ではありません。昨年、郡上市から泌尿器科1名、外科2名の勤務医が減少し、平成31年には小児科医が減少する可能性があり、小児科医がないとお産が制限される



新専門医制度

平成30年度からは、新専門医（注1）制度が導入されます。専門医になるには、日本専門医機構が定めた条件をクリアしなければなりません。例えば、外科専門医では手術経験数350件以上（3年間）などの条件があるので、手術数の少ない施設で専門研修をすることができません。国の政策で、大きな病院で経験を積むことが要求され、研修施設は本人の希望のため、地方の中小病院から若手の医師が減り、自然と都市部に集中する仕組みとなっています。

かもしません。地域の急性期医療を支えてきた先生方も高齢化し、世代交代の時期が来ていますが、若手の医師が今後10年先に確保できるかは、現在の医療情勢では不透明です。

平成26年の住民人口に対する医師数は、郡上市は岐阜市の約55%（図）です。また薬剤師・看護師も不足しています。なぜ今、医師不足か？若い医師が少ないか？医療制度はどうなっているか？を解説します。

郡上市民病院は、手術件数が多く、専門指導医があるので現在研修が可能です。さらに岐阜大学と県内の臨床研修病院である県総合医療センター、松波総合病院、木沢記念病院、岐阜市民病院などと提携し、1年間に10数名の研修医が当院で地域研修を行っています。住民のみなさまには、研修医たちに郡上の魅力を知つてもらい、将来郡上の医療を支えてもらえるように、

UターンまたはJターン就職希望の方が見えればお知らせいただくと有難いです。

最後に

前回の杉下医師会長の文章にあつたように、健康で病気にならないことが一番です。しかし、急病の場合、入院、検査・手術、リハビリテーションなど郡上市でできる医療を行い、家に帰れることがあります。もちろん在宅までは、その過程で多職種と連携します。病気の治療は市民病院の使命であり、入院から

（注1）専門医…内科・外科・小児科・産婦人科・整形外科・耳鼻科・皮膚科・泌尿器科・放射線科・眼科・精神科・脳神経外科・麻酔科・病理・臨床検査・救急科・形成外科・リハビリテーション科・総合診療科の19基本診療科のいずれかの専門医となるための研修。（注2）コンビ…受診夜間や休日など一般診療時間外に軽症患者などが救急外来を受診すること。急病ではない患者が、仕事など自分の都合を優先させて、日中の一般診療と同じような感覚で救急外来を利用するのこと。（注3）ナイトスクール…郡上市民病院のスタッフが公民館などで住民の方と直接対話をします。